

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

雪景色・東京

東京では5日の昼過ぎから冷たい雨が雪に変わり、授業後は早めに帰宅しようとの連絡が入りました。雪に弱い東京では、首都高速や東名・中央道が予防的措置により通行止めとなり、航空機も60便ほどが欠航、JRでも多摩地区や中央本線などでは運転見合わせの対応がとられました。例によって八王子駅前からの中継では、歩行者用デッキが積雪で白く覆われた状況が報告され、午後には早めに家路につく人の姿もとらえていました。

夕刻5時過ぎには校舎内から生徒の姿が消えたのを確認し、私も帰宅の途につきましたが、学校前の雪は5cmほど積もり、九段下の駅まで革靴のため、何度もバランスを崩しながら辿りつきました。自宅のある多摩地区では、更に降雪が激しくなっており、すでに10cmくらいに達していたでしょうか。車の轍を選びながらなんとか帰宅しました。

一夜明け6日朝、雪の峠は超したようですが、降り積もった雪や凍った路面に気をつけながらスノーブーツを履いて出勤。九段坂はまだ、雪が多く残った状況でしたが、内堀通りに入り学校前に来ると、先生方が雪かきを始めていました。一人二人と人が増え、多くの生徒が登校する頃には、除雪が完了していました。誰かが指示したわけでもなく、自然と生徒の転倒防止のために動く姿勢に頭が下がりますね。雪かきをする



先生方に、「ありがとうございます」と素直に感謝の気持ちを伝える生徒の声に先生方の疲れもふっ飛ばかのようなようでした。

自ら学ぶ姿勢をもとう

1月はあっという間に過ぎ去り、早くも2月に入りました。暦の上では立春を迎え、季節は「春」ですが、学校暦でいうと1年のまとめに時期になります。この年度末を如何に過ごし、新年度につなげるかが重要でしょう。

1・2学年の廊下の掲示板にそれぞれ2月のカレンダーが掲示されています。特に右側の日数は学年末考査までのカウントダウンとなっています。言うまでもなく、計画的に準備を進めていきましょう。

「勉強」には物事を習い覚えること、努力して困難に立ち向かうこと、気が進まないことをやることという意味があります。つまり、「仕方ないからやる・与えられた課題をこなす」という意味が含まれています。一方、「学習」は学び習うという意味で、「学び」は能動的に教えを受けること、手本やまわりがやっていることをまね、積極的に技術・知識を習得することを指します。やらされていた勉強から自らやる学びを意識したいものです。

